

第17回研究大会から

大会前日の7月9日の昼前に長岡に着いた。街には大会の道案内看板や横断幕は見られなかったが、25年振りに町をあげてのホタル祭りの名残りがただよっているせいか、歓迎してくれているように思えた。

会場に着くと、午後から一斉に会場作り、会場への道案内看板を立てるとのことだった。少々不安だったが、総勢15人の守る会の人、協賛会の方々が集るやいなや、あっという間に準備は終わった。

会場玄関にはホタル祭りのちょうちんが飾られ、雰囲気盛りあげた。

出席会員数はかつてない60名に達し、会員外の参加者も多く中央公民館の大会場は、いっぱいだった。

9:30開会、三枝会長代理の挨拶の後、山本町長より祝辞、庄議会議長、西秋教育長のご挨拶があって10:00から研究発表に移った。

発表時間は一課題につき質問を含めて20分に終るようお願いした。これは後述する諸情勢に対応する討議（話し合い）のための、時間を取りたかったためである。

9人の発表者が持ち時間内に終わらせ、意外に質問も少なく討議時間が1時間半も生じた。

最近における諸情勢と問題点は

1. 公的機関の新会員の急増に伴う研究会の体質（空気）と運営、並に公的機関におけるホタル増殖の問題点
2. 不燃物処理場設置に伴う河川への汚水流出について、今後の運動と対策
3. 下水浄化水によるホタル養殖の問題点
4. ホタル保護条例施行にあたっての問題点。ホタルの缶詰めの是非をめぐって

以上について話し合いに入ったが、意見が少なく折角の持時間をかえてもてあます状態だったので、総会に移った。

総会も懸案の会長は、16回大会で満場一致でおした羽根田氏に条件つき（現役員の任期が終るまでの2年間だけ）で引受けてもらうという役員会案で承認。ホタル幼虫の放流増殖事業は本年をもって中止。次年度の開催地については、一応考えていた佐賀市は見送り横浜市をお願いしたいとの意向を述べ、浅田氏の閉会の辞で予定より30分余も早く大会が終った。

見学～宿舎への時間が心配だったが、徒歩で殖施設、天野川を見学し日の明るうちに宿舎に着いた。

町長の歓迎パーティーには町長、庄議会議長、西秋教育長が態々宿舎である長浜市の豊公荘まで来ていただき、誠に心温まる宴だった。

翌11日は山東町の福祉バスで、天の川源氏蛭を守る会の森氏の名調子のガイドで沿道の名所旧績の説明を聞き、途中ホテルレークビワのホタル飼育施設を見学、同ホテルで昼食して守山市に向い、同市の鳩の森公園内の人工川と飼育施設を 岩井、平井両氏の案内で見学した。ついで守山市の福祉バスで大津市に向い、井上会員から千丈川を案内してもらい、つぎに石山寺に参詣して鷲尾大僧正

のご案内で寺内を拝観し、幼虫放流の水流れを見て全コースを終了した。なお、寺院前の茶店でいっぶく井上氏のおもてなしにあづかってから3時過ぎ解散した。

今回の大会には終始事務連絡をお願いした山東町教育委員会の竹田課長、宿泊変更など面倒な交渉に当たっていただいた森 初男両氏に厚くお礼を申上げる。

